東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年8月7日

夜を損なう者は昼をも失う

人間を最もよく知るのは、その創造主です。私たちの創造主は、夜を休息の時、昼を生計の為の時と示されました。もちろんこれは強制ではありませんが、原則としてこのようになているのです。これが人の天性や生物学的あり方に最も適した秩序であるに違いないでしょう。夜と昼についてはクルアーンで次のように言及されています。

「またかれが、あなたがたを夜も昼も眠れるようにし、またかれに恩恵を求めることが出来るのも、かれの印の一つである。本当にその中には、聞く者への印がある。」（ビザンチン章第 **23** 節）「夜を覆いとし、昼を生計の手段として定めた。」（消息章第 **10－11** 節）「かれこそは、あなたがたのため夜を定め、それであなたがたを憩わせ、また昼間を明々白々にされる方である。本当にその中には聞く耳をもつ人びとに対し、印がある。」（ユーヌス章第 **67** 節）

特にそうしなければならない理由もないのにこの逆を習慣することは、クルアーンが示しているこの秩序とあまり折り合いのつけられないことです。夜を学習や崇拝行為によって活用する人には何もいうことはありませんが、この大切な時間を何の役にも立たないテレビ番組を見たりインターネットをしたりして、価値のないもののために損なってしまう人のこの習慣がクルアーンのこの秩序に適していないことは明らかです。夜を失ってしまう人は結果として昼間を十分に生かすこともできません。おそらく家庭の改良は夜の時間の改良によって可能となるのです。

大切な兄弟姉妹の皆様。人の本質に適した形で創造されたこのしくみのおかげで、人は夜に休息し、昼には生計の為に働きます。世界が創造された時以来、夜と昼とが交互に顕れることについてアッラーは私たちに次のような興味深い問いを説明されています。「言ってやるがいい。『あなたがたは考えられるのか。アッラーが復活の日まで夜を続けられたとすれば、あなたがたに光を与えられるものは、アッラーの外にどんな神があるのか。あなたがたは、なお聞かないのか。』言ってやるがいい。『あなたがたは考えられるのか。アッラーが復活の日まで昼を続けられたとすれば、休息する夜をあなたがたに与えられるものは、アッラーの外にどんな神があるのか。あなたがたはなお分らないのか。』」（物語章第 **71－72** 節）

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、イシャーの礼拝の前に眠ること、イシャーの礼拝の後には会話に夢中になることをよしとはされなかった、ということを伝えるハディースは、そもそも、イシャーの礼拝の後は眠り、朝の礼拝を逃さないように、という用心を示すものです。預言者ムハンマドはあるハディースで、「夜に起きて礼拝を行い、その妻をも起こし、もし起きないのであれば顔を軽く叩き起こす人を、アッラーが慈しんでくださいますよう。同様に夜に起きて礼拝を行い、その夫をも起こし、もし起きなければ顔を軽く叩いて眠気を覚ます女性をも、アッラーが慈しんでくださいますよう」とおっしゃられています。

夜明けの時間に目覚めた状態で入ることは重要な、精神的特質です。精神的活力として、この恵み多い時をその必要性に適う形で大切にし、私たちの生やそこで得るものをより豊かにしましょう。